別紙

ちば会議 vol.3　ゲストスピーカープロフィール

 株式会社サイクレント・BMX STUDIO 池田　貴広　氏	近年ますます注目を集めているアーバンスポーツ。その中でも自転車を華麗に操ることで話題の BMX の活動拠点が土気に存在します。 その名も BMX STUDIO を運営するのは地元出身のプロ BMX ライダーである池田貴広さん。国際大会優勝や世界選手権準優勝の経験もある池田さんが自身の練習場所を探す中で見つけたその場所は 2021 年春のオープン。せっかくならスクールを始めよう、やるならアイテムを揃えられるショップも必要だと、今のスクール＆ショップの形（県内唯一）となりました。 池田さん自身、中学生の時に千葉の繁華街近くのとある公園で偶然見かけて、魅せられ、のめり込んでいった BMX のその世界。BMX STUDIO のすぐ近くには公園など、池田さん自身が日夜、技を磨いてきた場所もあり、かつて池田さん自身が 1 人で練習していたその場所は、今では、多くの子どもたちや仲間たちが BMX の技を磨く場として、変化を見せています。 ギネス世界記録を 7 つ持ちながら、シルク・ド・ソレイユでも出演経験があるなど、世界的アーティスト・アスリートがすぐ側にいることの価値。池田さんは、若葉文化ホールやネッツトヨタ千葉など、千葉の地域イベントで BMX に出会える機会や、スクールの生徒の皆さんがその技を披露できたりする機会を増やして、千葉で次なるチャレンジャーたちを育てています。 県内だけでなく、国内有数の BMX 拠点はこれからどこへ向かうのか。世界を見てきた池田さんの挑戦は続きます。ちば会議[vol.3]では、プロ BMX ライダーで株式会社サイクレント代表取締役の池田貴広さんに、千葉で育んできたその技術とカルチャーについてお話しいただきます。
 酒舗西浦 西浦　徳幸　氏	西千葉の地でまもなく 80 周年を迎える酒屋「西浦商店」が、遠方からお客さんを迎える日本酒とワインのセレクトショップ「酒舗西浦」として、進化を重ねています。 酒屋の 3 代目となる西浦徳幸さんは、酒屋の息子として、家族の背中を見ながら育ってきました。大学卒業後、山形でワイナリー・酒蔵で造り手としての修行を積んだ後、家業へ。まちの酒屋が次々とその役割を終えて閉業していく中、覚悟を決めた西浦さんは「流行ではなく自分の視点でお酒を選びたい」と、2018 年、お店のスタイルを一新させました。 何でも売るお店ではなく、特に燗酒と熟成酒にスポットを当て、西浦さん自身が本当に薦めたいお酒だけをセレクト。元々半地下だった店舗を貯蔵庫としながら、どんなコンディションで届けるかまでを意識して、各地の腕利きの造り手たちの逸品を、来る人来る人、語り合いながら販売しています。 さまざまなご縁に恵まれて、育んできたその情報と関係性。その目利きや提案力に惚れ込んで、今では、一般客からプロの飲食店まで、様々な人たちが遠くから訪ねてくれるお店になって来たのだといいます。それでも、まだまだ埋もれているお酒の価値や魅力をもっと届けられるようになりたいんだと、西浦さんは酒蔵や造り手の人たちと積極的に交流しては、自身をアップデートし続けています。 トレンドよりもあくまで本質を追いたいと語る西浦さん。ちば会議[vol.3]では、酒舗西浦 3 代目店主の西浦徳幸さんに、まちの酒屋の新たな可能性とそのチャレンジについてお話しいただきます。

別紙

ちば会議 vol.3　ゲストスピーカープロフィール

千葉大学大学院
柏　スズ　氏

大学で学んだことを、まちで実践できるーーー。まちとのつながりを得た一人の学生が、まちと学生との新たな可能性を広げています。
千葉大学でデザインを学んできた柏スズさん。コロナ禍と同時に入学し、オンライン授業が当たり前の時期を過ごしてきた柏さんは、少しずつ世の中が日常を取り戻す中で、新たなチャレンジを求めていましたが、そんな中で参加したのが千葉市主催のリノベーションスクール（現グッドネイバーズスクール）。「自分のやりたいことは何なのか」を改めて考えた柏さんは、大学で学んだデザインのスキルを活かして、まちとの接点を次々と増やすようになります。
子どもたち向けの花束づくりのワークショップ「OKUTTE」で各種イベントに出店、また、裏千葉にある TRESURE RIVER book cafe 店主の寶川さんの依頼を受けて、地域のお店を取材し、その魅力を「ちばっぷ」と題した MAP に仕立てました。その活動はやがて、そごう千葉店の公開空地・KUTSUROGIBA の名物プロジェクト「To TOWN」へとつながり、まちへの新たな入り口を作り出しました。同世代の学生同士で結成した「Mar61e（マーブル）」ではアパレル販売も経験しています。
人前に出て喋ったり、自ら積極的に発信したりできないタイプなんですと語る柏さん。まもなく社会人となりますが、「好きだから続けてきた」というその背中を追うようにして、1 人また 1 人と、次なる後輩が続き始めています。ちば会議[vol.3]では、千葉大学大学院生の柏スズさんに、まちで育んできたその経験と関係性についてお話しいただきます。

株式会社かえで
伊藤　貴紀　氏

幕張は学生時代から行き来した馴染みのまち。大学を卒業して、経済産業省で国家公務員としての道を進み、新しい産業を創る仕事にやりがいも感じていた伊藤貴紀さんでしたが、2 年前、親が経営する保育園運営会社を支えるべく、千葉に戻ってきました。
株式会社かえでは、幕張・検見川界隈で、現在 6 つの保育園を運営。保育の価値に正面から向き合い、0 歳から 5 歳の子どもたちに、安心できる環境でのびのび育って欲しいという想いを込めながら、千葉市内に 1000 坪近くの農園を有したり、絵本を貸し出せるようにしたりと、子どもたちの体験を大切にした保育園の運営に力を注いでいます。
経産省時代は空飛ぶクルマの産業振興を担当し、当時から、そこに「担い手が存在するか」に向き合ってきたという伊藤さん。毎年少しずつ園を増やしている同社の安定経営に力を注ぎながら、少しずつまちにつながりを増やしているのは、子どもも大人も関係なく、新しい営みが育まれるまちに、未来を感じているからです。
少しずつ新しい動きが重なり合い始めている、海浜幕張ではない、幕張エリア。まちの営みのすぐ近くで育てることの可能性と面白さに気づいた伊藤さんの新たなチャレンジが続きます。ちば会議[vol.3]では、株式会社かえで 代表取締役社長の伊藤貴紀さんに、これまでのチャレンジと、保育とまちの間にある新たな可能性についてお話しいただきます。